

総合海洋政策本部参与会議（第43回）議事概要

◆日時：平成30年10月9日（火）13時00分～15時00分

◆場所：中央合同庁舎4号館11階 共用第1特別会議室

◆議事概要（参与の発言は○、事務局又は各省の発言は●で示す。）

1. 開会

2. 第3期海洋基本計画に基づく工程表について

〔資料2、資料3について事務局から説明があった。以下、意見交換。〕

- 資料2の4ページの「総合海洋政策推進事務局」の下の箱の中には、「施策が総合的かつ計画的に」「事務局が一体となって政府の司令塔機能を果たす」というキーワードが入っている。しかし、資料2の1ページから4ページにかけてのいろいろな図において、そのような推進事務局の司令塔としての機能が必ずしも明確に表れていないように思う。そうした観点から、例えば、1ページ目の「総合海洋政策推進事務局」の下の箱に注目すると、2つ目の箱で「取組状況等を整理」とある。単に整理するだけではなく、司令塔としての機能を果たすという観点から、事務局の段階で関係府省に一度フィードバックしてよりよいものをつくった上で参与会議に上げることも可能ではないかと思う。

資料3-3の海洋の安全保障について、海洋の安全保障の中核をなすのは防衛であるという説明があったが、昨年度に海洋の安全保障小委員会でもまとめた案とも全く乖離する御説明だと思う。すなわち、総合的な海洋の安全保障という概念を用い、広く捉えることを伝えなければならないという共通理解のもとに、今回初めて第3期海洋基本計画において総合的な海洋の安全保障というものを捉えた。報道でも、「資源利用や経済効用から安全保障へ軸足を移した」といった誤解を生じかねない報道があり、あらゆる機会をとらえて、そうした誤解を防ぐべきである旨、5月の参与会議でも確認したところである。海洋の安全保障小委員会及び参与会議のマンデートの中には防衛がなかったが、防衛が中核ではないということは何度も確認してきたと思う。明確な確認と訂正をお願いする。

- 工程表を作成するに当たり、各省庁から出てきたものをそのまま資料にしているのではなく、各省庁に対して事務局から提案を相当程度した上での調

整している。資料2については、ご指摘を踏まえて修正したい。例えば3ページの「工程表の公表」の下「工程表を踏まえた施策の総合的かつ計画的な展開」については、資料では事務局だけになっているが、関係省庁と一緒に進めていくという調整が必要だと考えている。司令塔機能を果たせるように、事務局では積極的に関係省庁に対して提案しながら作業を進めている。

- 海洋の安全保障についてのご指摘はその通りであり、訂正するとともに、今後十分注意していきたい。
- 指標について事務局がイニシアチブあるいはリーダーシップを発揮されたということはよく理解できた。それを資料2に明確に反映するのが望ましい。
- 指標は決まった後の数字の話であり、我々が期待しているのはもっと上流側のことである。例えば産業化について、とても時間がかかっており、このままでは諸外国に負けてしまうのではないかと議論してきた。例えば、事務局の調整のポイントとして、国際情勢からこのように見直しをしてほしいとか、そういう指標より上流側の考え方、国際的な動向、あるいは省庁を超えた、省庁間の順序付けなどを国民的な視点からやるのが必要ではないか。現在の案は、各省庁が持っている基本計画をそのまま出しているのではないか。そうではなくて、国民から見て何を先にやらないと日本の国際的なポジションがおかしくなるというようなことを、きちんと根拠を持って調整する必要があると思う。
- 資料3-3の21ページの人材育成について、安倍総理の海の日発言で、海にかかわる人材を多くしよう、伸ばそうとあるが、この線表を見ると、具体的なものがないので、具体的に何年にどれぐらいの数値が達成できるのかが見える線表にできないか。また、19ページの北極政策については、政府と研究者との懇談会が毎年同じように行われるようになっているが、どこに力を置くか、どこの年代になったら何をしたいのかが良く見えない。特に研究開発、技術開発の線表を見ると、具体的なものが書かれていないため、もう少し具体化してはどうか。
- 工程表をつくるという過程において、基本は第2期海洋基本計画の工程表がすでにあるので、それをベースに動くのがまず重要なことと考えており、

状況が変われば、それに応じて新しくどう取り組んでいくかということが議論になると思う。いつまでにどこまで達成するかというのを全て明らかにするのは今の段階では難しいが、そういったものを見ながら、次にどういったところに問題があるか、課題があるかということの審議を参与会議でしながら、できるだけそれに応じたような資料作成をしていきたい。

その上で、集中的な議論が必要だということであれば、PT等で扱うべき内容になると考えている。または、議論を深めていくために事務局としてサポートをしていきたい。

- 資料3-3の工程表について、第一感是非常に見やすくなったと思う。これは第3期海洋基本計画策定の議論においてPDCA型でやっていくということを受けて作成された資料であり、以前の第3期海洋基本計画時の資料は真ん中のバーチャートがあるだけだったが、構造化され、予算措置が記載されるなど可視化された。

ただし、バーチャートが1本しかなく、縦に結びついていない。縦の関係があって、何がどこまで進んだのかということを示す必要があると思う。

- 資料3-3の工程表について、個別の施策についてこの時期でいかどうかというような議論はこれからやるとしており、そういう議論を個別に続けていかないと、せっかく工程表をつくっても役に立たない。何かをなし遂げようと思ったら、一本で考えられるわけがないので、さらに細かい工程表を組んでいかないといけない。そのため、出発点として、今はこう考えているという問いかけならよいが、これでいいという話ではない。

- 資料3-3の9ページの水産について、水産基本計画を5年間粛々とやっていくという記載になっているが、実際の現場では水産政策の改革を水産庁が打ち出し、漁業法の改正も含めた作業が進んでいる。そういったトピックスがここに反映されないのはどういうことなのか。基本計画はいろいろな項目を総花的に並べていることが多いので、その優先順位や重みづけがわからないので、工程表には重みづけや、何をいつまでに検討するのかという目安を入れてほしい。そのようなことを見えるようにしないと、次の議論が始まらないのではないか。

10ページからの環境について、さまざまな国際会議で環境に関する世界的な動きがあるため、何年にどういう会議があるのかを入れて、国際的なスピードに合わせていく検討が必要なのではないか。

- 資料3-3の工程表について、本当に御苦労されたなというのが第一印象。先ほど各参与から指摘があった点については、今後もう少し改善をしていただきたい。

PDCA サイクルについて、来年度に備えて事業を具体化していったときの予算要求の時期とこの参与会議の流れがうまく合っているのかどうかについて少し説明をしていただきたい。

海洋の安全保障について、総合海洋政策本部として今の質、量、防衛力整備あるいは海上保安庁の整備体制はこれで十分なのかという議論の結果を、どの程度この線表の中に反映できるのか。

MDA について、今年度末から海洋状況表示システムができて、各関係省庁がいろいろ使うことになる。その運用に関して、見やすさや使いやすさについて必ずフィードバックを設けて、それを線表の中で反映ができればよいと思う。

- 資料3-3の工程表について、これで工程表と言うのかというのが素直な感想。私どもの組織では、何かプロジェクトをやろうとすると必ず工程表を作り、常に自分たちの立ち位置がどこにいるかを確認しながら仕事をするようにしている。それから、プロジェクトを実施するときには、結果はどうなるかということを明記するようにしており、そういった点で指標があると思う。関係省庁の数がたくさんあるため、何かを具体的に確定していくのは難しいのかもしれないが、もう少し目標値をはっきりしたほうがよいと思う。

- 資料3-3の工程表について、海洋基本計画に基づいて非常によく整理した形になっていると思う。中身を見てみると、例えば指標で研究者の数があるが、何人ならいいのとか、何人にしたいのとかいう目標値等を書く必要があるのではないか。

また、工程表というのは必ずマイルストーンがあり、どこまでにこれが達成できていると次に進めるといふようなところがあると思う。シンプルにしたので長い棒線になっているという見方もあるが、もしそうであればもう少し工夫をしていただきたい。事務局が苦労して調整し、合意されたものの形としてこう書いてあると思うが、世の中の変化やいろいろな省庁の中で調整し切れなかった問題があれば、それは事務局としての課題のような欄があって、記載してもよいのではないか。

- もっと細かい工程表でないとわからないのではないかというご意見に関連して、従前の第2期海洋基本計画の工程表は線表だけで量が多く分かりに

くかったことを踏まえて今回どこまで作り込むかを検討し、施策群を用いてもう少し大きくくりにして作成している。そのため、いろいろな施策を全体的に大きく見ていく上での出発点と考えている。

当然ながら、個々の施策を実際に運用しようとするれば、いつまでにどうするかということは細かく議論されて、各省庁も行っている。今回の第3期海洋基本計画で数値目標はかなり増えているが、すべてに数値目標があるわけではないため、それを補うという意味で指標を用いることとした。

工程表と予算要求の時期の問題については、資料2の3ページの通年ベースでの工程管理のスケジュールにあるとおり、6月に前年度の373項目の施策についてチェックすることとしている。その時点での反省点や、前年度に作成した工程表を見ながら、見直しの必要性を6月ごろに検討し、その意見等も踏まえながら9月の工程表の見直していくとともに、9月の概算要求を行っていききたい。

- 第3期海洋基本計画に基づいた具体的な工程表が最初に示されたということで、読みやすくなったと思う。読みやすくなればなるほど欠点も見やすくなるため、様々な意見が出てくることも当然であり、参与の皆様方もそれが貢献だと思う。

今日の意見を踏まえて、もう少し工夫できるところがないか事務局で考え、事務局としてのイニシアチブで各省を説得して、ここはこういうふうに変えてもらいたいというような形をつくっていただきたい。

また、今日の意見をもとに改訂したもので、次は公表するということになるかと思う。本年度は参与会議の日程と審議状況が予算編成と合っていないので、来年度からは予算編成に合うような形で工程表の改訂も進めていき、その面で参与の皆様から積極的かつ具体的な提言をいただきたい。

3. PT、スタディグループの設置について

[資料4について事務局及び各担当参与から説明があった。以下、意見交換。]

- 資料4-1の「3. PTの運営」の(1)で原則として非公開とするという点については、現段階ではそれが望ましいことは理解している。ただ、PTの報告書は参与会議に提出され、参与会議の意見書の中に添付され、その時点では公開されるという理解している。その理解が正しいのであれば、その旨を3.の(1)(2)(3)のいずれか適当なところに記載をすることを提案する。

また、スタディグループについて、シーレーンのスタディグループの紙の

最後に、「(注1) 議論は非公開とする」「(注2) 審議の熟度によって、PT への変更の可能性がある」という注記があるが、もう一つの海洋科学技術に関するスタディグループにはないのはなぜか。

また、「スタディグループへ関心を有する参加が積極的に参加することが望ましい」という説明があったが、会合の日程が全ての参加に連絡があるか確認したい。

- 資料4-1の記載の変更は、ご指摘のとおり最終的に意見書という形で取りまとめた段階で公表するという記載に修正したい。

また、これまではスタディグループはなかったため、プロジェクトチームで掲げたものは、必ずそれをまとめて意見書にして、総理に提示することとなっていた。こうなると、テーマを選出するに当たってもハードルが高過ぎることがあるので、スタディグループのほうは意見書までいかなくても、海洋政策上、あるいは基本計画を踏まえて把握しておいたほうがよいものや研究を深めたほうがよいものについて、ハードルを下げてやってみるというイメージである。

スタディグループについての運営方針は基本的に各スタディグループに委ねているが、ご指摘の点は、非公開というところが原則であれば、その記載も統一をとるか、あるいは「4. スタディグループの設置及び運営」のところに記載するという形で平仄をとりたい。

スタディグループの日程については、個別の回ごとに各担当から声かけをするという形で運営したい。

4. その他

[10月5日に開催された第3回海洋資源開発技術プラットフォーム会合について、高島参与から報告があった。]

5. 閉会

以上